

富山県のウラジログシ林分布(予報)*

太田 道人

富山市科学文化センター

A preliminary report on the vertical distribution of *Quercus salicina* Bl. forest in Toyama Prefecture, Middle Japan.

Michihito OHTA

Toyama Science Museum

In 1982, I carried out a floral survey on the distribution of *Q. salicina* forests in Toyama Prefecture.

Q. salicina is singly distributed from 10 meters to 400 meters above the sea level and makes some communities at the altitude of 70—340 meters. In Himi City and its vicinity, north western part of Toyama, there are two forests of *Q. salicina* under 50 m in altitude.

はじめに

ウラジログシ林は、通常日本海側の中部地方以南のヤブツバキクラス域上部に発達する極相林として知られ、富山県の実生林の一つと考えられている。しかし、分布する地域は人間の生活圏にあたるため、ウラジログシ林の多くは伐採され、富山県の低山帯の実生林を知ることは、非常に難しくなっている。しかし、社叢や集落の裏山、急な斜面などには、残存する小林分が見られ、実生林を考察する上でも、きわめて重要な存在となっている。

富山県の実生林に関する研究はなされておらず、現存実生図としては、1, 5, 6(末尾文献欄参照)が、印刷されている。

本調査は、富山県の実生林考察の一部として、ウラジログシ林分布の上限、下限をききわめることを目的とし調査したもので、これは、とりもおさず、ブナ林の下限、スダジイ林の上限の考察にも値する問題である。

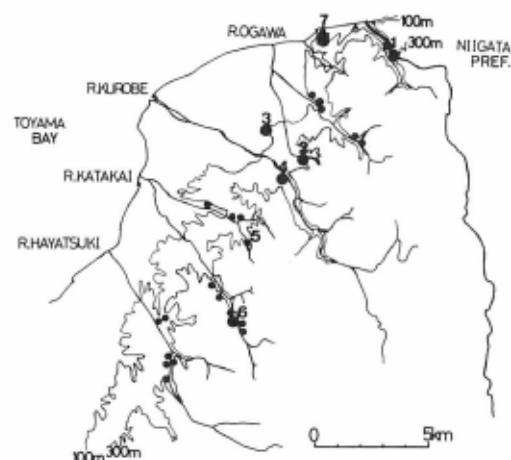
調査方法

ウラジログシの分布が予測される地域を、自動車を用いて、各河川流域ごとに、できる限り多くのルートを行き、ウラジログシ林および単木を捜した。また、海拔400 m以下の山地にある社寺は、ほとんど立寄って調査した。自動車には、必ず2名以上乗車し、時速30km前後で行き、ウラジログシが見られた場合には、その場所に入って実生調査を行うことを原則とした。ただし、地形により立入りが不可能な場合は、双眼鏡による確認にとどめた。なお、実生調査は、ウラジログシが、少なくとも高木層で優占種となっており、面積が20 m×20 m以上の林分についてのみ行った。

結 果

県の東側に位置する境川から、順次西側に位置する河川の順に配列し、各河川ごとに、ウラジログシ(Q)、スダジイ(C)、ブナ(F)

*富山市科学文化センター研究業績 第25号



凡例 (図1～図4に共通)

- ウラジロガシ林
- スダジイ林
- ▲ タブ林
- ◆ ブナ林
- ウラジロガシ
- スダジイ
- △ タブ
- ◇ ブナ

図1 早月川以東のウラジロガシ分布図

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1: 大平 100m | 2: 舟見 240m |
| 3: 下山 106m | 4: 愛本 150~180m |
| 5: 福平 220m | 6: 奥平沢 320m |
| 7: 宮崎のスダジイ林 20~70m | |

の分布高度および主な確認地点とその海拔高度(mは略), 地形を記す。地形は, 斜面・崖・尾根・谷・段丘崖の計5種の語句を用いて表現する。

1. 境川・笹川流域 (図1)

C 林分20m—70m: 宮崎鹿島社20—70斜面
Q 単木の20m—80m: 大平80斜面,
下横尾10斜面
Q 林分100m: 大平上流1km100斜面

2. 小川・舟川流域

Q 単木の100m—200m: 蛭谷140斜面,
小川温泉260崖
Q 林分240m: 舟見の東2km240斜面
F 単木の240m: 舟見の東2km240斜面

3. 黒部川流域

Q 単木の160m—280m: 内山160斜面, 宇奈月280斜面
Q 林分106m—180m: 下山106斜面, 愛本150斜面

4. 布施川流域

Q 単木の80m—220m: 阿弥陀堂80斜面, 笠破100斜面, 田畑140斜面
Q 林分220m: 福平220斜面

5. 片貝川流域

Q 単木の220m—400m: 東蔵240崖, 奥平沢300斜面, 奥平沢上流2km400斜面
Q 林分320m: 奥平沢320斜面 (写真1)

6. 早月川流域

Q 単木の160m—300m: 入合橋付近160斜面, 護摩堂200崖
Q 林分60m: 金山谷60斜面

7. 白岩川・大岩川流域 (図2)

Q 林分140m—240m: 大松140斜面, 大岩240谷底 (写真2)

8. 常願寺川流域

Q 単木の180m—380m: 岩崎寺180斜面, 松木260段丘崖, 牧260段丘崖, 小見300段丘崖, 本宮380段丘崖
Q 林分200m: 析津200斜面 (写真3)

9. 熊野川流域

Q 単木の160m—380m: 窪160斜面, 西小俣200斜面, 手出380斜面
アカガシ単木の300m—380m: 長瀬300斜面, 手出380斜面

10. 神通川・宮川流域

Q 単木の5m—320m: 呉羽5斜面, 笹津100斜面, 牛ヶ増~芦生100~200斜面および崖, 新猪谷ダム湖岸280斜面, 中山200~250斜面, 加賀沢250~300斜面, 加賀沢上流1.5km320崖
Q 林分160m—180m: 神通峡160~180崖

11. 井田川流域。上流部は久婦須川(ク), 野積川(ノ), 室牧川(ム)の各支流に分かれる。

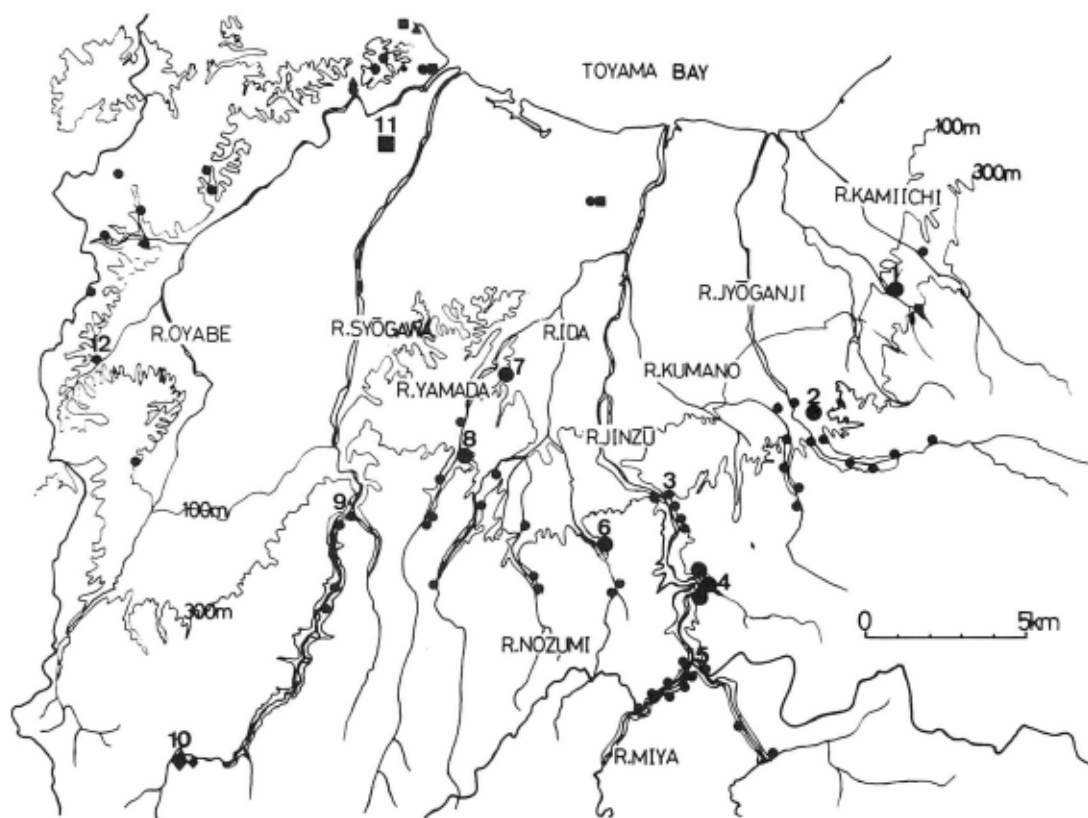


図2 県中西部のウラジログシ分布図

1. 大松 140m	5. 猪谷 250m	9. 小牧 180m
2. 柄津 200m	6. 桐谷 280m	10. 菅沼(ブナ) 350m
3. 笹津 100m	7. 常楽寺 95m	11. 高岡(スダジイ) 13m
4. 神通峡 180m	8. 山田温泉 150m	12. 白谷 80m

Q単木の65m—360m：掛畑(ク)160斜面，桐谷上流2～3km(ク)300～320段丘崖，川倉(ノ)200斜面，松瀬(ノ)300斜面，上野(ム)140斜面，栗須300～360斜面

Q林分95m—280m：常楽寺95斜面，桐谷(ク)280斜面，高橋(ム)100斜面

12. 山田川流域

Q単木の30m—360m：長沢30斜面，中瀬90段丘崖，居舟300～360斜面

Q林分150m：山田温泉150斜面

13. 庄川流域

C林分13m：高岡古城公園13斜面

Q単木の120m—200m：小牧発電所120崖，小牧ダム湖岸180斜面，大牧温泉180斜面

F林分340m—350m：細島340尾根，菅沼350尾根

14. 小矢部川流域

C単木の5m：勝興寺5斜面

Q単木の5m—190m：勝興寺5斜面，二上山180～200斜面，一宮20斜面，鉢伏山180斜面，高坂観音滝50谷，久利須190斜面，埴生65斜面

Q林分80m：白谷80斜面

15. 仏生寺川流域 (図3)

C林分20m：雨晴20斜面，上泉20斜面

Q単20m：沖崎20斜面

Q林分40m：西田40斜面

16. 上庄川流域

C 林分15 m—70 m：中尾30斜面，柿谷15斜面，中村30斜面，上田50斜面，上田南1 km70斜面



図3 氷見地方のウラジログシ及びスダジイ分布図

- | | | |
|---------|-------------|------|
| ウラジログシ林 | 1. 谷口 | 50 m |
| | 2. 磯部 | 65 m |
| | 3. 西田 | 40 m |
| スダジイ林 | 4. 中波 | 20 m |
| | 5. 脇方 | 25 m |
| | 6. 中村 | 30 m |
| | 7. 上田 | 50 m |
| | 8. 上田の南1 km | 70 m |

Q 単木の30 m—160 m：久目30斜面，論田75斜面

17. 余川流域

Q 単木の40 m—180 m：一ノ瀬60～70斜面，寺尾180斜面

18. 阿尾川流域

C 林分5 m：阿尾5斜面

Q 単木の20 m—100 m：指崎20斜面，黒谷60斜面，上宮100斜面

Q 林分65 m：磯部65斜面

19. 下田川流域

Q 単木の20 m—140 m：中田20斜面

Q 林分50 m：谷口50斜面（写真4）

考 察

ウラジログシの垂直分布と、河口からの直線距離との関係を図4に示す。

単木としてのウラジログシは、海拔10 mから400 mと広範囲に分布する。しかし、群集としての分布は、海拔40 mから320 mであった。

ウラジログシ林の分布の上限は、(1)海拔350 m以上には、ウラジログシの分布する例が少ないこと、(2)庄川菅沼のブナ林（海拔340 m～350 m）は、石川県のブナ林分布下限350 m（里見，1975）を考慮すると、富山県のブナ林の

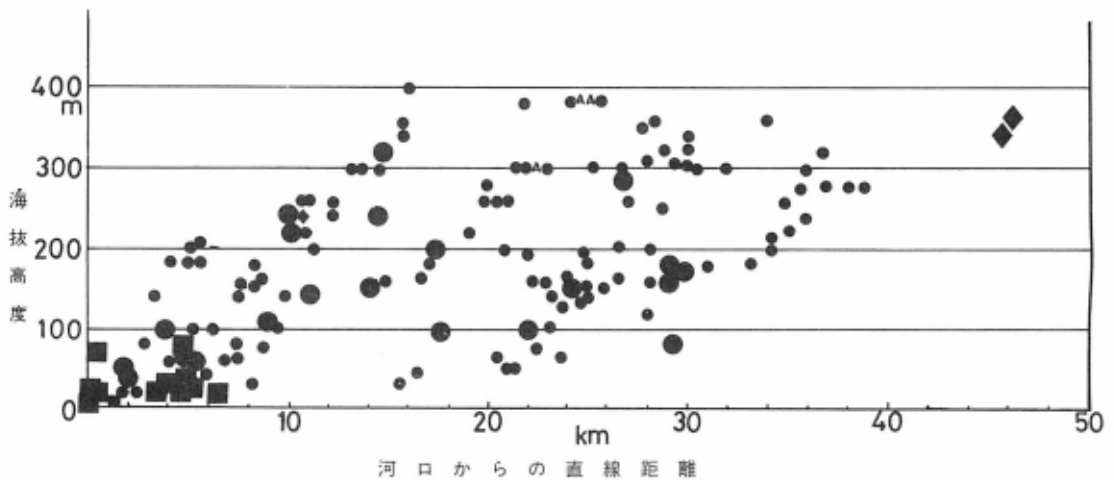


図4 富山県のウラジログシの垂直分布

下限に近いと考えられること——の2点から、
海拔340 m前後と考えられる。

一方、スダジイ林は、海拔10 mから70 mに
分布し、この範囲内に、4例のウラジロガシ
林が存在する。ウラジロガシ林分布の下限は
次のように考えられる。シイタブ林域は、
新潟県西部が北限と考えられており、また、
石川県では、スダジイ林が、海拔100 m～150
mでウラジロガシ林と相接しているので、富
山県でのスダジイ林分布の上限は、海拔100
mより低いものと予測される。今回調査され
たスダジイ林で、最も高所のものは、氷見市
上田と朝日町宮崎の林で、共に海拔70 m前後
であり、これより上部には、単木も見られな
かったので、海拔70 mが、スダジイ林分布の
上限であると考えられる。したがって、ウラジ
ロガシ林の分布の下限は、海拔70 m前後であ
り、地形によっては、下降して分布する林分
があると考えてよいのではないだろうか。

道路からの調査だけでは、不十分な地域に
は、今後、航空写真や徒歩による調査を行い
河川流域ごとのウラジロガシ分布の差や、ブ
ナ・スダジイのより詳しい分布を、明らかに
していく必要がある。

謝 辞

調査に同行して下さり、標本の同定から原
稿の校閲まで、懇切に指導していただいた、
金沢大学理学部講師里見信生氏、調査に協力
していただいた、金沢大学理学部学生の広瀬
祐次君、池田善英君、小竹真理子君、河野和
博君の各氏に深く謝意を表する。

文 献・地 図

1. 大田弘, 小路登一, 長井真隆, 1982. 富
山県現存植生図, 環境庁.
2. 大田弘, 小路登一, 長井真隆, 1978. 第
2回自然環境保全基礎調査, 特定植物
群落調査報告書, 北陸版, 環境庁.
3. 里見信生, 福島司, 1975. 石川県原植生
図, 石川県林業試験場.
4. 里見信生, 1976. 富山県の社寺林研究報
告, 森林・第5号, 土井林学振興会.
5. 文化庁, 1973. 天然記念物緊急調査, 植
生図・主要動植物地図.
6. 宮脇昭, 1977. 富山県の植生, 富山県現
存植生図, 富山県.

- 図版 I
1. 奥平沢上流のウラジロガシ, 海拔 320 m, May 2, 1982.
 2. 大岩のウラジロガシ林, 谷底, 海拔 240 m, May 3, 1982.
 3. 栃津熊野社のウラジロガシ林, 海拔 200 m, Jun. 11, 1982.
 4. 集落の裏山に残存するウラジロガシ林, 谷口, 海拔 50 m, May 21, 1982.

